様式３

学　校　番　号

20

令和４年度　　学校評価書　　（計画段階・実施段階）

福岡県立若松商業高等学校

自己評価

学　校　運　営　計　画　（４月）

学校運営方針	（１）高い志をもち、新しい時代や社会のニーズに主体的に対応できる人材の育成 （２）新たな価値を創造し、持続可能な地域、社会の発展に貢献できる人材の育成 （３）多様な社会の中で「あたたかい心」をもった、自他を尊重できる人間性豊かな人材の育成		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	A
昨年度も、コロナ禍の中、感染対策を全職員で取組み、生徒の安全・安心を担保すると同時に、生徒に自信と誇りを持たせるため一丸で取組むことができた。今年度はＩＣＴ活用推進を柱に授業改善を行い、生徒が学ぶことの喜びや達成感を持つことができるよう指導を行うと共に選ばれる学校づくりを更に推進していく。	高い目標・目的を持たせる	目的意識を持たせ、個々の自己実現の支援を行う。	
	基礎学力の定着と専門性の深化を図る	ＩＣＴ活用を推進し、授業改善に努める。	
	検定試験の取得に力点を置いた指導の充実	検定試験に挑戦し合格する成功体験を積ませ、更なる高度な資格に挑戦させる。	
	生徒のチャレンジ精神を育む	国公立大学及び難関大学への挑戦と、新たな求人開拓により生徒の希望進路実現を目指す。	
	広報活動の充実と本校の魅力発信を行う	本校の魅力を地域や中学生に発信し、「選ばれる学校」になる。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
学習支援	教務	○生徒一人一人の資質・能力を伸ばすための授業実施を目指す。 ○新しい基準に基づく評価方法の定着を図る。	観点別評価の定着を図り、授業改善に努める。	B	B	A	本年度から、各教科における評価方法が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点による評価に変更となった。次年度は、本年度の観点別評価の実施状況を踏まえ改善をおこなう。また、学習評価の妥当性や信頼性を高め、生徒自身に学習の見通しをもたせるため、学習評価の方針をきちんと事前に生徒と共有する場面を設けていきたい。
			ＩＣＴ活用を授業改善の中心に据え、タブレット端末を積極的に活用する。	A			
			計画的な学習習慣を確立させ、学習の自己調整力を身に付けさせる。	B			
			考査問題の質を向上させ、定期考査の学習が、学力向上に繋がるように努める。	B			
	研修図書	○ＩＣＴ活用を推進するため、研修体制を図る。 ○教員の資質・能力向上のための教員研修を計画し、充実を図る。	タブレット端末を活用した授業を推進するための、研修を実施する。	A	B		ＩＣＴを活用した授業や校務の効率化を図るため、研修を適宜実施したが、学校職員全体がこれらの技術を活用した状態までにはなっていない。次年度以降、更なる研修の充実を図り、資質・能力の向上に繋げていきたい。また、緊急時対応研修では、ロールプレイングを行うことで、緊急時における具体的な動きを身に付けさせるよう取り組むことができた。
			若年教員研修等の各種研修を円滑に実施する。	B			
			教員間での授業参観を実施し、授業改善を図る機会を設定する。	B			
			緊急時対応等の研修を実施し、万が一の場合の教員の動きを身につけさせる。	A			
	企画庶務	○儀式的行事について、意義と伝統を踏まえた計画の作成や運営を行う。 ○ＰＴＡや同窓会と連携し、教育活動の実態に応じた活動を実現する。	行事の準備・運営計画について情報共有を行い各分掌・学年との連携を図る。	A	A		感染対策を十分に行った上で、生徒にとっての成長の節目となる各行事を実施できた。次年度は各分掌・各学年との更なる連携を行い、生徒一人一人が能動的に行事に参加できるよう、工夫改善を行っていきたい。ＰＴＡ活動においては、役員の積極的な参加により意義ある活動にすることができた。次年度につなげていきたい。
			新型コロナウイルス感染症の感染状況を確認し、臨機応変に適切に対応する。	A			
			ＰＴＡや同窓会と緊密に連携し、関連行事の円滑な運営を行う。	B			
生徒支援	生徒指導	○規範意識の育成を図り、自ら考え、自ら行動できる生徒の育成を図る。 ○生徒会活動、部活動を活性化し、学校活性化を図る。	挨拶指導・頭髪指導・服装指導等を通して生徒に規範意識を身につけさせる。	B	B	B	スカート指導などの服装チェックをＨＲや授業の始業終業時に確認して貰っている。当初は効果が見られたが長続きはしなかった。服装チェックを続けている授業と止めた授業があるためだと思われる。学校行事は若商祭など例年とやり方を変えたが次年度に繋がる良い形になったと思う。部活動加入率は約３４％なので、次年度は新入生も含め在校生も新規加入をさせたいと思う。
			学校行事等を通してリーダーの育成に力を入れる。	A			
			生徒の良い面を褒めるなど、生徒のプラスの面を評価する指導方法を実施する。	B			
			部活動加入率４０％を目標とし活性化を図る。	B			
	保健環境	○美化意識を育成し、校内美化の保持に努める。 ○感染対策を継続し、校内から感染者を出さない取組に努める。	生徒の美化意識を向上させ、主体的な美化活動を推進する。	B	B		校内の清掃活動は監督範囲が広いにも関わらず、良く指導していただいているが、徹底できていない箇所もある。 コロナウイルス感染症に関しては、慣れからの対策不行き届きが生じているように感じる。収束するまで、基本的な対策を継続していきたい。
			日常の清掃活動および学校行事前の清掃活動を徹底し、校舎内外の美化を保持する。	B			
			校内の感染症拡大防止のための対応を継続する。	A			
キャリア支援	進路指導	○生徒の希望進路実現のためのキャリア教育の充実を図る。 ○総合的な探究の時間の充実を図る。 ○キャリアパスポートの活用を計画的に推進する。	スタディサプリ・こころざし実現講座等を活用し、基礎学力の向上を図る。	B	A	A	今年度、進路決定について、概ね第１進路希望を実現することができた。進路指導部のみならず、３学年及び多くの先生方の協力体制が整っていることが生徒の背中を押すこととなった。次年度もこの体制を維持したい。また、１年生については、総合的な探究の時間を活用し自分のキャリアを考えるきっかけをつくる体制を整えたい。新型コロナウイルス感染症拡大防止を意識しながら、２年生の体験型のキャリア教育を計画し、実施していきたい。
			進路講話や進路ガイダンス等により、進路意識の醸成を図る。	A			
			各学年におけるキャリア教育の具体的目標をたて、成果や課題を明確にする。	B			
			大学進学等の進学指導と、幅広い就職先の確保による就職指導のきめ細やかな実践	A			

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A　：　適切である B　：　概ね適切である C　：　やや適切である D　：　不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	生徒の学習を継続するため、リモートで対応するなど、先生方の努力が感じられる。引き続き感染症への対応並びにアフターコロナに向けた対応をお願いしたい。
B	各種行事について、感染拡大防止のため延期や規模縮小などの対応については、生徒及び教員の間で共通認識のもと、取組めていることについて評価したい。また、行事による教育効果を念頭に、行事を中止するという安易な決断ではなく、今後も実施方法等の変更で対応して欲しい。
A	国立大学への進学者を輩出するなど、進学指導においても生徒の第一進路希望実現させていることを評価したい。また、就職指導においても面接指導から履歴書指導まで丁寧な指導実践を評価したい。

第１学年		○基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	遅刻・欠席をさせない指導を徹底し、家庭との連絡を密に行う。	B	A	A	各コースに応じた特色ある授業を展開する。 来年度の修学旅行に向け、集団生活において規律を重んじる必要性があることを認識させる。 生徒情報の共有化を図り指導することができた。来年度についても同様の方針で指導していきたい。また、生活習慣の確立と他者を思いやる行動ができるように指導を継続したい。 また、進路実現に向け、インターンシップ等の体験活動を軸にキャリア教育を推進できるよう計画していきたい。	A	集団生活における規律を重んじる姿勢の育成などの取組について評価したい。また、第一進路希望実現に向けた指導をお願いしたい。
			五分前行動及び提出期限の厳守といった良い習慣を身に付けさせる。	A					
			集団生活を構成する一員としての自己の役割や責任について自覚させる。	A					
			検定試験合格に向けた環境を学年全体で整え、資格取得に対する姿勢を育てる。	A					
			挨拶の励行及び清潔な身嗜みが社会に出るために必要なマナーであることを理解させる。	B					
第２学年		○自主的・主体的な姿勢で粘り強く物事に取り組む姿勢の確立を図る。 ○基礎学力の定着と課題解決能力の育成 ○キャリア教育の推進	集団生活の中で規範意識の大切さと、自己の役割や責任について自覚し、他者を思いやる気持ちを涵養し、主体的な社会参加への意識づけを図る。	A	B	B	学校行事経験し、集団生活ルールを守り、自分自身の役割について理解することができるようになっている。また、中堅学年として果たすべき役割についても理解し、行動できたと考える。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、インターシップを経験させることができなかったことは残念である。来年度はキャリア教育の充実を図り、経験できなかった就業体験をカバーできるよう他の手段を検討していきたい。また、進路実現のための基礎学力向上を図る。	A	学校行事等をとおして、集団生活に落ち着きがでてきたことを評価したい。来年度の進路実現に向けて、引き続き指導をお願いしたい。
			一般教科と商業との連携を強化し、学びを通して課題解決能力の育成と専門性の深化を図る。	B					
			キャリア支援等と連携し、進路ガイダンス等を通して、学びの活動記録等を活用し、自身の進路実現に向けての準備を行う。	B					
第３学年		○進路実現に向けて、計画的に粘り強く取り組む。 ○学習・生活両面の中で主体的な取り組みができるよう推進していく。	最終学年としての責任と自覚を持ち、自己実現に向けての努力を継続する。	A	A	A	生徒の進路実現に向けて、保護者や他の先生方、外部機関等との連携を図り、計画的に進めることができた。 学校行事等を通じて、リーダーシップ力の育成や責任ある行動の推進等についての取り組みが不十分であり、成功体験等の積み重ねや計画的な取り組みがもう少し必要であった感じる。	A	学校行事でリーダーシップを発揮できた点について高く評価したい。また、進路指導に向けて様々な支援をし、生徒が進路実現できたことについて評価したい。
			規律を重んじ、ビジネスマナー等を身に付け、成人としての心構えを培う。	B					
			キャリア支援・保護者等と連携し、生徒の進路実現に向けて情報を共有して取り組む。	A					
人権・同和教育		○差別に気づき、差別を許さない生徒を育てる。	従来の指導案のみにとらわらず、部落差別及び本校生徒の現状を踏まえた指導案を作成する。	A	A	A	教職員が差別に気づく、差別を許さない雰囲気を醸成し、生徒の指導に引き続き取り組んでいく。人権・同和教育の意義を学校全体で見直すと同時に、研修体制を充実させたい。	A	今後も全職員が一丸となって、人権・同和教育の推進に取り組むことを期待している。
			部落差別解消に向けて研修を行い職員の理解を深め、実践していく。	A					
商業教育	総合ビジネス科	○商業高校生としての志と技術を身に付けさせる商業教育の充実	基礎・基本を重視した教科指導を徹底し、生徒が学びの達成感を得られるような授業改善を重ねる。	A	B	B	来年度は主に１学年で学習する基本科目「簿記」「ビジネス基礎」「情報処理」を今以上に商業技術の基礎・基本の定着や商業の楽しさを育む指導方法に改善していきたい。また、「ソフトウェア活用」など新しい科目の教材研究に力を入れ、充実した授業を展開できる準備を行	A	資格取得に向けては、合格率の更なる上昇に期待したい。また、ＩＣＴ教育については更なる改善・工夫をお願いしたい。
			上位級に挑戦する意欲を湧かせ、目標に向けて我慢と諦めない姿勢を養う。	B					
	ビジネス情報科	○商業高校生としての志と技術を身に付けさせる商業教育の充実 ○ビジネスの諸課題をコンピュータを活用して解決できる能力を育成する。	プログラミングの学習内容をビジネスの場面と結び付けさせる。	B	B		文化祭の販売実習とプログラミングの授業を関連付けた実習を取り入れる等、授業内容の工夫改善を行う。		
			ビジネスに即した課題を解決する一連の実習を取り入れる	B					
事　　務		○教育環境の整備 ○生徒の就学支援	予算の節約（目標5%削減）を推進すると共に、必要性の高い施設修繕、物品購入を適切に措置する。新型コロナウイルス対策に対応して、柔軟かつ臨機応変な予算対応に努める。	A	A	A	予算削減の中、必要性の高いものから備品等の購入、修繕等を行うことができた。就学支援では職員と生徒の家庭状況の情報を共有し、適切に対応できている。	A	限られた予算の中で、様々な工夫が見られる。生徒の家庭状況など手厚い支援について評価できる。
			各学年と連携して、生徒の経済状況の把握に努め、生徒の就学を適切に支援する。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・観点別評価やＩＣＴ活用を推進し充実させることをとおして、生徒の学習意欲や学力の向上を図っていく。
・各種検定試験等を充実させ、キャリア教育の推進を図っていく。
・ホームページを随時更新し、情報発信をするとともに、様々な手段を用いて広報活動を推進する。

評価項目以外のものに関する意見